

令和7年5月市長定例記者会見

日時：令和7年4月30日（水） 午前10時30分～

場所：射水市役所会議室302

報道出席者：北日本新聞、富山新聞、読売新聞、朝日新聞、北日本放送、
チューリップテレビ、射水CATV、
庄東タイムズ・ホットライン小杉

当局出席者：市長、企画管理部長、財務管理部長、企画管理部次長、
都市計画課長、環境課長、防災・資産管理課長、人事課長

Q1. 電動キックボードの実証実験について、本格導入や他地域への展開を考
えているか。

A1. 太閤山リノベーション計画ということで、太閤山地区における地域交通
の維持・充実の課題解決に向けた実証実験として行う。課題や地域の意見
をもとに、可能であれば本格導入していきたい。

その他のエリア展開は、実証実験の結果による。まずは、実証実験で運
用のメリット・デメリットを把握し、導入可能なエリアや課題を把握して
いきたい。

Q2. 高齢者も利用できるのか。

A2. 利用可能年齢は16歳以上であり、上限はない。ただし、高齢者の方に
とっては、アプリで予約することにハードルがあるのではないかと思う。
安全講習会で、アプリの操作方法なども案内させていただく。ぜひ、高齢
者の方も安全に気をつけて利用いただければと思っている。

Q3. ヘルメットも貸し出すのか。

A3. ヘルメットの着用は、努力義務である。中太閤山コミュニティセンター、
アルプラザ2階の商工企業立地課で貸し出しを行うが、電動キックボード
に常備するわけではない。

Q 4. アランマーレ富山のプレーオフ進出について、今年もパブリックビューイングを計画しているか。

A 4. 確定ではないが、地域おこし協力隊スポーツ推進コーディネーターが検討していると聞いている。

Q 5. 選手へ応援のエールをいただきたい。

A 5. 今回で3年連続のプレーオフ進出となった。リーグ戦の最終順位が確定しておらず、何位でプレーオフに進出するかによって有利不利がある。できるだけ上位でプレーオフに臨んでいただきたい。

プレーオフはノックアウト方式で、負けたらそこで終わりである。短期決戦で難しく、これまでのように相手も本気で臨んでくると予想され、非常に厳しく白熱した戦いになると期待している。選手の皆さんが粘り強く戦う姿から勇気や元気をもらっており、ハンドボールの楽しさも教えてくれていると感じている。ぜひ、アランマーレらしく戦い、日本一を掴んでいただきたいと思う。

Q 6. オリバースポーツフィールドが再開し、ルートインの開業も控えている。合宿等、市内の宿泊需要を高めるための思いや取組を教えてください。

A 6. オリバースポーツフィールド射水の復旧工事が終わり、利用が再開された。利用についての問い合わせが多く、県のサッカー協会、県のラグビー協会から大会や学生合宿の予約もいただいている。

合宿の誘致に関して、市内で合宿した方々に、市内宿泊施設への宿泊を要件に補助制度がある。ただし、大人数での合宿の場合、市内宿泊施設では収容人数が足りず、制度を活用いただくことができないことがあった。5月に新たな宿泊施設がオープンすることで、課題が解決され、より利用しやすい、いい環境になると思っている。引き続き、環境の充実が図られたことなどをしっかりとPRし、合宿などを誘致していきたい。

Q 7. 港町の住民説明会で、住民から多くの要望があった。市長の思いを教えてください。

A 7. 4月27日に住民説明会を開催した。内容はボーリング調査の結果とそれを踏まえた液状化対策の工法などについてである。実証実験の実施に関して、おおむね了承が得られたと考えている。

今回実証する「地下水位低下工法」の場合、ポンプを稼働しながら地下水位を下げるため、ポンプの稼働に経費がかかる。それらの費用を地元で一部負担するという話が、近隣の自治体で出ており、地元の皆さんからは負担がないようにしてほしいという声があった。また、土地区画整理事業を活用し、新たなまちづくりも行い、復興に向けたビジョンを示してほしいという発言もあった。

維持管理費について、実証実験を行い、「地下水位低下工法」で効果があるのか確認する必要がある。結果を踏まえ、本格実施となると、ポンプ稼働の維持管理をどうするのかという話が出てくる。可能な限り、地元負担が小さくなるように検討していきたい。土地区画整理事業については、液状化対策をしないと新しいまちづくりはなかなかできないため、まずは、液状化対策を行いたい。地元や地権者の皆さんと意思を一つにしながらか進めていく必要があり、相談していければと考えている。

Q 8. 無償になる可能性はあるのか。

A 8. 可能性はあると思っている。現段階では、可能な限り地元負担を小さくしていきたいと思っており、市が負担することになるかもしれない。国との協議で、国から費用の支援に関する話があるかもしれない。確定はしていないが、今後の動向を注視していきたい。

Q 9. 年間の維持管理費は決まっているのか。

A 9. 分析結果によって、導入するポンプのグレードが異なる。大体の推計はできるかもしれないが、曖昧な数字になるため、回答は控えたい。

Q 10. 11月に控えている市長選挙について、5選目に対する市長の思いを教えてください。

A 10. 現在、4期目16年という大変長い期間務めている。16年にわたり、市民の皆さんと共に市政を進めてきた経験がある。能登半島地震から

の復旧・復興、物価高、エネルギー高、人口減少という時代の大きな変化の中、残された任期でこれらの社会課題にしっかり取り組み、市民の幸せ・市政の発展に繋げていきたい。また、新たな課題についても何ができるのか、しっかり考えていかなければならないと思っている。自分なりに何かできることがあるのではないかとといった前向きな気持ちもある。選挙については、後援会の支援者の方々から了承をいただくことが必要であり、慎重に、自分なりに判断していきたいと思っている。

Q 1 1. 前向きに考えているという認識でよいか。

A 1 1. 非常に様々な課題が顕在化してきている中で、新たに取り組んでいかなければならないものも現実的には見えてきている。また、射水市はポテンシャルが高いと思っている。いろいろな方々にご協力いただきながら、ポテンシャルを生かす新たな取組について、できることがあるのではないかとと思っている。

Q 1 2. 先日開催された小泉進次郎衆院議員の講演が後押しになったのか。

A 1 2. 小泉進次郎先生の講演では、地方創生の重要性が高まってきており、それぞれの自治体が工夫し、自分たちの地域の良さを生かしながら、課題解決に向けていろいろなアイデアを出して取り組んでいく必要があるというお話をいただいた。射水市にも様々なポテンシャルがあり、新たな可能性も出てきている。このようなものを生かしていくことが市民の幸せ、市の持続的な発展に繋がっていくと感じている。

Q 1 3. 最終的な判断はいつ行うのか。

A 1 3. 後援会や市民の皆さんの意見を頂戴しながら、最終的には後援会の皆さんにお諮りし、了承いただけるということが大事だと思っている。時期などについては、慎重に判断していきたいと思っている。